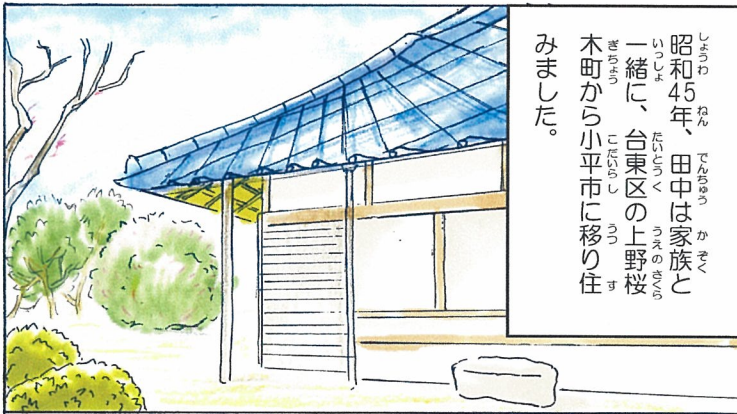


田中彫刻記

でんちゅうちょうこくき

第二十五話 ～小平の地へ～

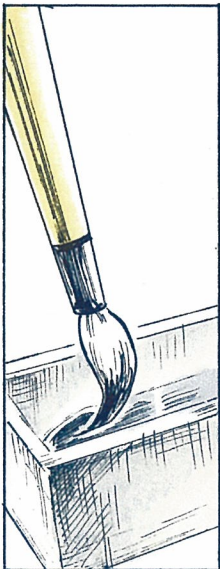
文・絵 いたうたかし
書 さいとう みき



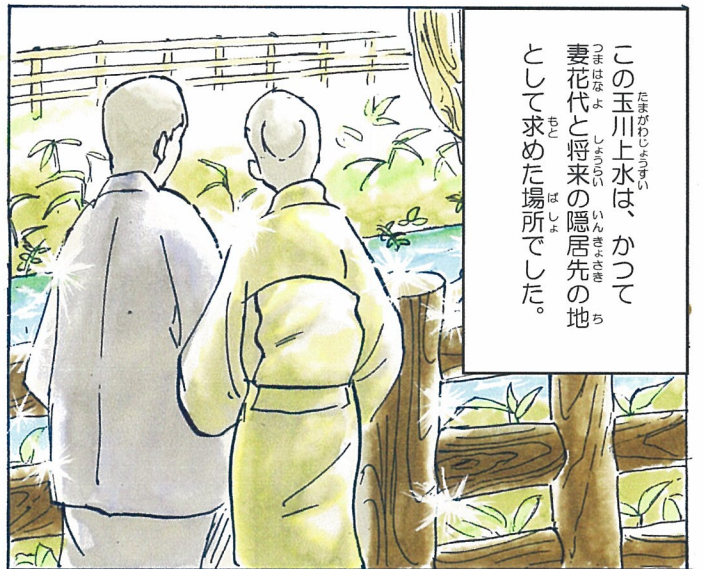
昭和45年、田中は家族と一緒に、台東区の上野桜木町から小平市に移り住みました。



ここは玉川上水の流れる小平市学園西町——



この頃、田中には彫刻の他にも力を注ぐものがありました。



この玉川上水は、かつて妻花代と将来の隠居先の地として求めた場所でした。



いざ!!

六十七は
はなたれこそう
男ざかりは
百から百から

おとこざかりは
ふからふから

六十七は
はなたれこそう
男ざかりは
百から百から

いまやらねばいづできる
わしがやらねばたれがやる

いまやらねばいづ

わしが

たれが

やる

百歳を迎えても、制作の意欲は衰えず、彫刻の合間には書を好んで書きました。
これらには、田中が生涯を通して自分の信条とした言葉が力強く書かれています。



田中が彫刻のために取り寄せた大きな楠木は、今も小平市の自宅の庭に残されています。



まだまだ作りたいものが
沢山あるからね

この木は、あと20年寝かせて
おけば、立派な彫刻材に
なるよ

まご ひろこ
孫の弘子さん